様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 １８ 日現在

機関番号：１４４０３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ０４８６２

研究課題名（和文）生活設計リテラシーの習得に向けた家庭科教材及びカリキュラムの開発

研究課題名（英文）Development of Home Economics Teaching Materials and Curriculum for Learning of Life Planning Literacy

研究代表者
鈴木　真由子（SUZUKI, Mayuko）

大阪教育大学・教育学部・教授

研究者番号：６０２４１１９７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、【生活設計リテラシー】の習得に向けて、求められる資質・能力を明確にするとともに、消費者教育及びキャリア教育と連携させたオリジナル教材及び体系的な家庭科カリキュラムを開発することを目的とした。具体的には、（１）【生活設計リテラシー】に関する児童・生徒の実態把握及び教育課題の明確化、（２）海外の先駆的実践者へのインタビュー調査及び現地への視察調査、（３）体系的な家庭科カリキュラム開発及びオリジナル教材の作成、評価及び改訂を実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の成果は、【生活設計リテラシー】の習得を目指し、消費者教育とキャリアデザインと関連させることで、中学校段階から家庭科教育分野で展開できるオリジナル教材及びカリキュラムを提案できたことである。それらは、先駆的な実践を展開してきた海外の教育現場等からの示唆、国内の児童・生徒・学生等に対する実態調査を踏まえたものであり、中学校家庭科担当教員の現実的な授業展開を視野に入れた評価を得ている。換言すれば、理論に基づく理想的な空論ではなく、実現可能性を見据えた点に意義があると考える。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify the qualities and abilities required for the acquisition of life planning literacy, and to develop teaching materials and curriculum linked with consumer education and career education. Specifically, 1) clarify the actual conditions of students and education issues regarding life planning literacy, 2) conduct interview surveys and observations with pioneering practitioners overseas, and 3) develop a systematic home economics curriculum and make original teaching materials.

研究分野：教科教育学

キーワード：生活設計リテラシー　消費者教育　キャリアデザイン　カリキュラム　教材

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

## １．研究開始当初の背景

日本においては、家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化、少子高齢社会の進展や経済のグローバル化、デフレの進行、失業率の増加、非正規雇用者率の増加、高度情報化など、激しい社会変化に直面している。そのような中、若年層が将来への見通しを持てない状況は、解決が急がれる社会問題であると考えられる。

『我が国と諸外国の若者の意識に関する調査』（内閣府 2014）では、「自分の将来について明るい希望がある」と回答した日本の若者の割合は 6 割を超えており、調査対象となった 7 か国で最も低い。また、『子ども・若者白書』（内閣府 2015）においても、「今が楽しければよいと思う」と回答した小中学生は全体の約 6 割を占め、2006 年調査から 1 割以上も増加している。

こうした社会状況の下で自己実現を図り、自立・自律した一生を送るためには、計画を立て、先を見通し、不測の事態に対応する力が不可欠であると言えよう。家庭科教育では、従来から生活設計に関連する学習が、そうした力の育成を担ってきた。生活設計とは、＜その時々の生活環境のなかで家計や家族の現在の生活を見据え、将来の生活を展望し、個人や家族の夢や生活課題、家族の病気や死亡、災害や失業などの生活リスクを点検し、お金や人間関係、健康などの生活資源を蓄えていく。そういった日々の生活と将来の生活とを結び付けていくための考え方の枠組み＞であり、多様なリスクを回避・調整したり、リスクから回復（レジリエンス）したりする【生活設計リテラシー】の習得が求められていると考える。

しかし、我が国においては消費者教育やキャリア教育と連携させた家庭科カリキュラムの提案はきわめて少ない状況にあり、生活設計リテラシーの習得を目指した学習は、決して十分とは言えない。

次期学習指導要領の改訂に向けて審議のまとめが示された。そこでは、家庭科教育で育成を目指す資質・能力に『「自己のライフスタイルの実現に向けて，将来の家庭生活や職業生活を見通して(高)」「将来の家庭生活や職業との関わりを見通して(中)」学習に取り組もうとする態度』を挙げている。また、「生涯の生活を設計するための意思決定や消費生活や環境に配慮したライフスタイルを確立するための意思決定(中略)等に関する学習活動を充実する(高)」「金銭の管理に関する内容や、消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立の基礎となる内容を充実する(中)」ことが求められている。これらのことから、現行学習指導要領と比較して、【生活設計リテラシー】の習得が重視されたと考えられるが、具体的なカリキュラムの提示は未着手である。

本研究において、【生活設計リテラシー】の習得を目指した体系的な家庭科カリキュラムを開発することは時宜を得たものであり、オリジナルの教材開発については、教育現場のニーズも高いと考えた。

## ２．研究の目的

本研究の目的は、【生活設計リテラシー】の習得に向けて、求められる資質・能力を明確にするとともに、消費者教育及びキャリア教育と連携させたオリジナル教材及び体系的な家庭科カリキュラムを開発することである。具体的には、（１）【生活設計リテラシー】に関する児童・生徒の実態把握及び教育課題の明確化、（２）海外の先駆的実践者へのインタビュー調査及び現地への視察調査に基づくオリジナル教材及び体系的な家庭科カリキュラムの試案作成、（３）オリジナル教材に関する評価及び改訂版カリキュラムの開発を行う。

## ３．研究の方法

（１）【生活設計リテラシー】に関する児童・生徒の実態把握及び教育課題の明確化
- １）【生活設計リテラシー】に関連する国内外の研究論文、先行調査、教育実践例、資料等を収集・分析して課題を整理する。
- ２）アンケートによって児童・生徒の【生活設計リテラシー】の習得状況を把握する。
- ３）実態調査結果に基づいて、【生活設計リテラシー】の習得に向けた教育課題を明確にする。

（２）先行実践を踏まえたオリジナル教材及び体系的な家庭科カリキュラムの試案作成
- １）海外（アメリカ）の先駆的実践者であるマリリン・スウィーク氏へのインタビュー調査を実施する。
- ２）海外（オーストラリア等）の現地視察調査における関係者へのインタビュー調査、授業参観、教材等の資料収集によって、オリジナル教材開発の示唆を得る。
- ３）１）、２）の結果を踏まえて、【生活設計リテラシー】の習得を目指した体系的な中学校技術・家庭（家庭分野）のカリキュラム及びオリジナル教材を試作する。

（３）オリジナル教材に関する評価及び改訂版カリキュラムの開発
- １）中学校における家庭科担当の現職教員からオリジナル教材に対する評価を受ける。
- ２）１）の結果を踏まえて、改訂版の教材を作成するとともにカリキュラムの改訂版を開発する。

## ４．研究成果

（１）【生活設計リテラシーに関する児童・生徒の実態把握及び教育課題の明確化

１）先行研究、調査、実践例等の資料を分析した結果、家庭科教育における【生活設計】に関する学習は単独で扱われるか、包括的に学習のまとめとして位置づけられていることが多く、キャリアデザインとの接点も少ないことが明らかとなった。

２）小中学生を対象にした質問紙調査の結果、いずれも性別役割意識やキャリア形成の基礎的・汎用的能力に性差及び学年差が認められた。中でも男子中学生のキャリアプランニング力に課題が認められた。

３）大学生を対象にした質問紙調査の結果、入学に際しての目的意識や資格の取得と、将来の自分自身の働き方、パートナーに期待する働き方と関連が認められた。また、ジェンダー意識や市民性・社会参加意識とも関連性が確認できた。

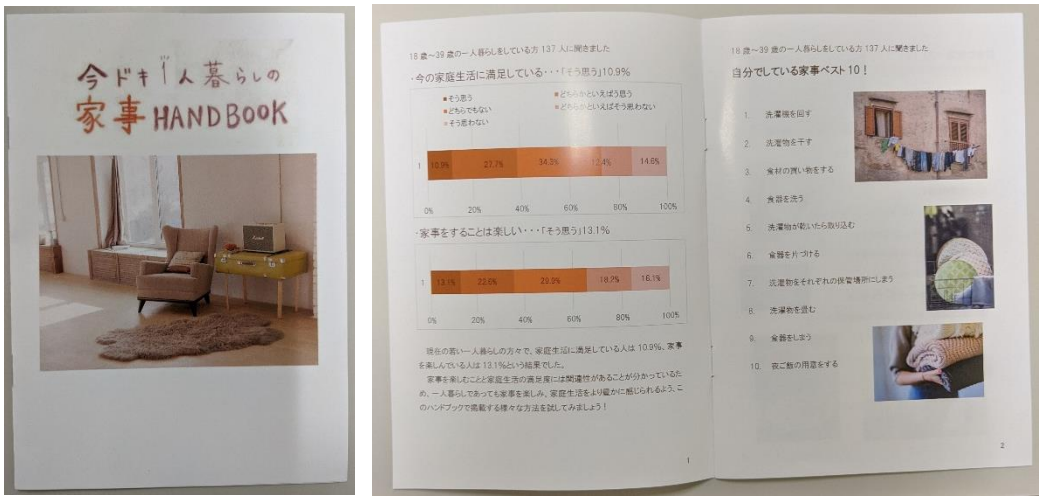
（２）先行実践を踏まえたオリジナル教材及び体系的な家庭科カリキュラムの試案作成

１）2017 年 8 月上旬に開催された ARAHE Tokyo に合わせて来日したアメリカのサービス・ラーニングの第一人者であるマリリン・スウィーク氏（元米国家族消費者科学会会長）へのインタビュー結果から、地域社会と学校教育現場との協働的な取組の枠組みが確認できた。また、それをベースにして展開するサービス・ラーニングは、自信の将来を見据えたキャリアデザインに結びつき、【生活設計リテラシー】の習得につながる可能性が示唆された。

２）2018 年度、2019 年度に現地視察したオーストラリアでは、就学前の幼児から高等学校までをカバーした私立学校及び公立の小学校を訪問し、授業参観、教員・管理職・児童生徒へのインタビューを実施した。消費者教育やキャリアデザインに関連した学習が【生活設計リテラシー】の獲得と結びついて展開されており、長期的・体系的なプログラムによってユニークな実践を継続している学校もあった。

３）１)、２）の結果を踏まえて、【生活設計リテラシー】の習得を目指した体系的な中学校技術・家庭（家庭分野）のカリキュラム及び２種類のオリジナル教材を試作した。

　１つ目は、家庭科で目指す自立・自律の基盤となる「生活的自立」に関わる教材『今ドキ１人暮らしの家事 HAND BOOK』（A５版）である。一般社会人の単身者を対象とした Web 調査を実施した結果、家事労働に対するジェンダーの存在や家事実践の実態が明らかとなった。これをもとにして、一人暮らしを前提としたハンドブックを作成した。対象は、中学生以上を想定し、生活の自立に向けたリテラシーの習得を促すものである（写真１）。

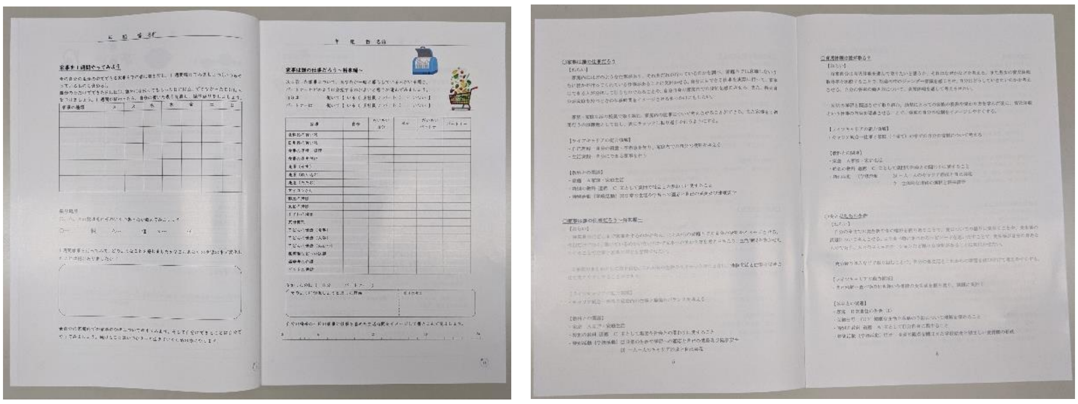



（写真１）左　教材冊子の表紙、右　冒頭の２ページ

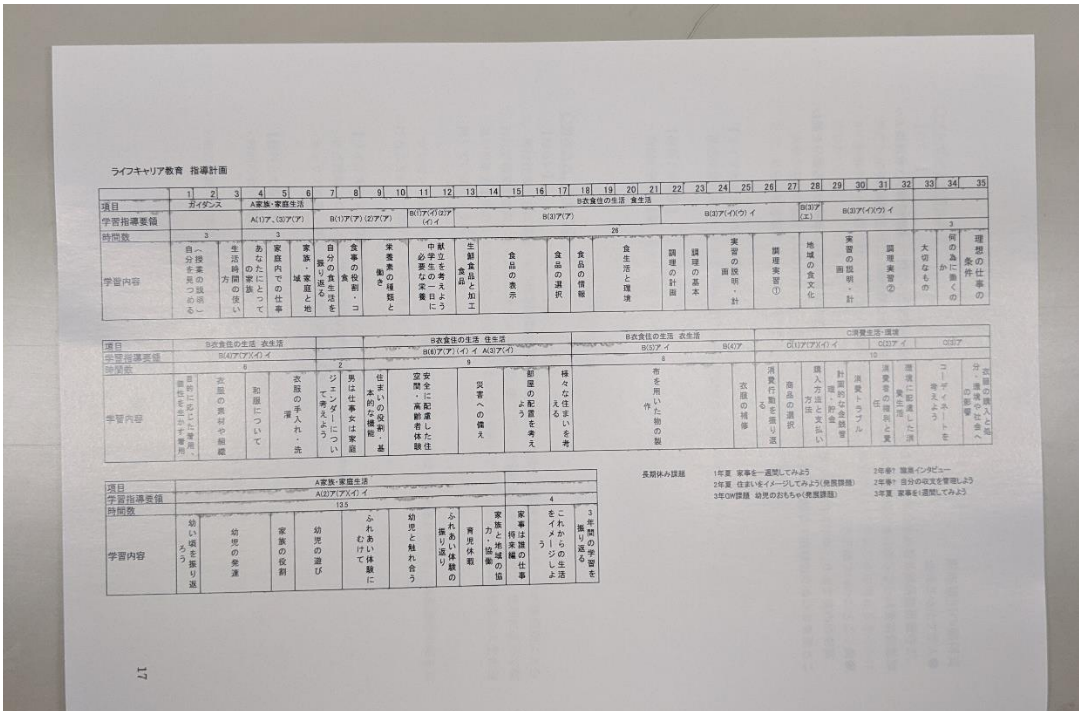
　２つ目の教材は、中学校技術・家庭（家庭分野）で活用することを前提にした、教材『家庭科で学べる　ライフキャリア　ワークブック　自己実現を目指して生き方を考える』である。生徒用のワークブック（全 66 ページ）及び教師用の指導書（全 18 ページ）をセットで開発した（各 A４版）（写真２、写真３）。教師用指導書には、テーマのねらい、ライフキャリアの能力の該当領域、他教科・分野等との関連について整理した。

　「自分自身について知ろう」から「男は△△、女は□□･･･？」まで、計 27 項目、発展課題 3 項目で構成し、最後に「ライフキャリア教育　指導計画」として 3 年間のカリキュラムを掲載した（写真４）。

（写真２）左　生徒用ワークブック、右　教師用指導書の表紙



（写真３）左　生徒用ワークブック本文、右　教師用指導書該当ページ



ライフキャリア教育　指導計画

| 項目 | ガイダンス | | A家族・家庭生活 | | | B衣食住の生活　食生活 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学習指導要領 | | | A(1)ア、(3)ア(ア) | | | B(1)ア(ア)(2)ア(ア) | | | B(1)ア(イ)(2)ア(イ)イ | B(3)ア(ア) | | | | | B(3)ア(イ)(ウ)イ | | | | B(3)ア(エ) | B(3)ア(イ)(ウ)イ | | | |
| 時間数 | 3 | | 3 | | | 26 | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | |
| 学習内容 | 〜授業の説明〜自分を見つめる | 生活時間の使い方 | あなたにとっての家族 | 家庭内での仕事 | 家族・家庭と地域 | 自分の食生活を振り返る | 食事の役割・コ食 | 栄養素の種類と働き | 献立を考えよう中学生の一日に必要な栄養 | 生鮮食品と加工食品 | 食品の表示 | 食品の選択 | 食品の情報 | 食生活と環境 | 調理の計画 | 調理の基本 | 実習の説明・計画 | 調理実習① | 地域の食文化 | 実習の説明・計画 | 調理実習② | 大切なもの | 何の為に働くのか |

| 項目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学習内容（続き） | 理想の仕事の条件 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 項目 | B衣食住の生活　衣生活 | | | | | | B衣食住の生活　住生活 | | | | | B衣食住の生活　衣生活 | | C消費生活・環境 | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学習指導要領 | B(4)ア(ア)(イ)イ | | | | | | B(6)ア(ア)(イ)イ　A(3)ア(イ) | | | | | B(5)アイ | B(4)ア | C(1)ア(ア)(イ)イ | | | | | | C(2)アイ | C(3)ア | |
| 時間数 | 6 | | | | 2 | | 9 | | | | | 8 | | 10 | | | | | | | | |
| 学習内容 | 目的に応じた着用、個性を生かす着用 | 衣服の素材や組織 | 和服について | 衣服の手入れ・洗濯 | ジェンダーについて考えよう | 男は仕事女は家庭 | 住まいの役割・基本的な機能 | 安全に配慮した住空間・高齢者体験 | 災害への備え | 部屋の配置を考えよう | 様々な住まいを考える | 布を用いた物の製作 | 衣服の補修 | 消費行動を振り返る | 商品の選択 | 購入方法と支払い方法 | 計画的な金銭管理・貯金 | 消費トラブル | 消費者の権利と責任 | 環境に配慮した消費生活 | コーディネートを考えよう | 衣服の購入と処分・環境や社会への影響 |

| 項目 | A家族・家庭生活 | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学習指導要領 | A(2)ア(ア)(イ)イ | | | | | | | | | | | |
| 時間数 | 13.5 | | | | | | | | | 4 | | |
| 学習内容 | 幼い頃を振り返ろう | 幼児の発達 | 家族の役割 | 幼児の遊び | ふれあい体験にむけて | 幼児と触れ合う | ふれあい体験の振り返り | 育児休暇 | 家族と地域の協力・協働 | 将来編　家事は誰の仕事 | これからの生活をイメージしよう | 3年間の学習を振り返る |

長期休み課題
1年夏　家事を一週間してみよう
2年夏　住まいをイメージしてみよう(発展課題)
3年GW課題　幼児のおもちゃ(発展課題)
2年春?　職業インタビュー
2年春?　自分の収支を管理しよう
3年夏　家事を1週間してみよう

17

（写真４）教師用指導書に掲載した「ライフキャリア教育　指導計画」

（３）　オリジナル教材に関する評価及び改訂版カリキュラムの開発

１）中学校における家庭科担当の現職教員に開発したオリジナル教材の試作版を提示･説明し、内容や構成、表記等に対する評価を受けた。実際の授業展開における活用可能性を視野に入れ、具体的なアドバイスをいただいた。

２）１）の結果を踏まえて､改訂版の教材を作成するとともにカリキュラムの改訂版を作成し、印刷製本するとともに、配布した。

（４）研究成果のインパクトと今後の展望

本研究の成果は、【生活設計リテラシー】の習得を目指し、消費者教育とキャリアデザインと関連させることで、中学校段階から家庭科教育分野で展開できるオリジナル教材及びカリキュラムを提案できたことである。それらは、先駆的な実践を展開してきた海外の教育現場等からの示唆、国内の児童・生徒・学生等に対する実態調査を踏まえたものであり、中学校家庭科担当教員の現実的な授業展開を視野に入れた評価を得ている。換言すれば、理論に基づく理想的な空論ではなく、実現可能性を見据えた点に意義があると考える。

今後は、実際の教育現場において実践し、教育効果を検証することが課題である。また、教育学部（教員養成課程）及び教職大学院の授業において活用することで、さらなるブラッシュアップをめざしたい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>奥谷めぐみ | ４．巻<br>14号 |
| ２．論文標題<br>幼児期における消費者教育・環境教育の役割 | ５．発行年<br>2019年 |
| ３．雑誌名<br>令和元年度幼児教育研究部会報告書 | ６．最初と最後の頁<br>32-39 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>大本久美子、鈴木真由子、加賀恵子 | ４．巻<br>1 |
| ２．論文標題<br>小・中学生のジェンダー意識と家庭生活観 | ５．発行年<br>2020年 |
| ３．雑誌名<br>日本家庭科教育学会近畿地区会50周年記念誌 | ６．最初と最後の頁<br>19-26 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>大本　久美子、阪本　直花 | ４．巻<br>56 |
| ２．論文標題<br>中学校技術・家庭（家庭分野）における「職業・生活キャリア」を育むカリキュラム開発 | ５．発行年<br>2019年 |
| ３．雑誌名<br>生活文化研究 | ６．最初と最後の頁<br>1-11 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>石川　智子、大本　久美子 | ４．巻<br>56 |
| ２．論文標題<br>学校教育における消費者製品安全教育 | ５．発行年<br>2019年 |
| ３．雑誌名<br>生活文化研究 | ６．最初と最後の頁<br>13-24 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>鈴木　真由子、尾上　有香 | 4．巻<br>56 |
| 2．論文標題<br>大学生のエシカル消費に対する実態 | 5．発行年<br>2019年 |
| 3．雑誌名<br>生活文化研究 | 6．最初と最後の頁<br>35-42 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

〔学会発表〕　計9件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

| |
|---|
| 1．発表者名<br>Mayuko Suzuki , Keiko Kaga, Kumiko Ohmoto, Megumi Okutani |
| 2．発表標題<br>Factors Affecting a Positive Attitude toward Life Planning among Students |
| 3．学会等名<br>ARAHE BIENNIAL INTERNATIONAL CONGRESS（国際学会） |
| 4．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| 1．発表者名<br>奥谷めぐみ、鈴木真由子、加賀恵子、大本久美子 |
| 2．発表標題<br>中学生の生活設計リテラシーとジェンダー観の実態把 |
| 3．学会等名<br>日本家庭科教育学会2019年度例会 |
| 4．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| 1．発表者名<br>加賀恵子 |
| 2．発表標題<br>領域・人・実生活における実践とのつながりを重視した金銭教育 |
| 3．学会等名<br>日本家庭科教育学会第62回大会 |
| 4．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>鈴木真由子、大本久美子、加賀恵子 |
| ２．発表標題<br>キャリアデザインと関連させた海外の消費者教育 |
| ３．学会等名<br>第39回日本消費者教育学会 |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>奥谷めぐみ |
| ２．発表標題<br>大学生の消費生活に係る知識と生活意識との関連性－成年年齢引下げを見据えた講義の提案にむけて－ |
| ３．学会等名<br>日本消費者教育学会九州支部会 |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>鈴木真由子 |
| ２．発表標題<br>”働き方”に対する女子大学生の意識の実態とキャリアデザインの課題 |
| ３．学会等名<br>日本家庭科教育学会第61回大会 |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>大本久美子 |
| ２．発表標題<br>消費者市民社会の実現をめざす高等学校のカリキュラム開発 |
| ３．学会等名<br>日本家庭科教育学会第61回大会 |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>岩下紀子・川口惠子・奥谷めぐみ・手塚美代子 |
| ２．発表標題<br>「貧困」問題を克服し市民性を涵養する家庭科カリキュラムの構築 |
| ３．学会等名<br>日本家庭科教育学会九州地区会研究発表会 |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>奥谷めぐみ・鈴木真由子・大本久美子 |
| ２．発表標題<br>デジタルコンテンツ利用を題材とした動画教材の評価－大学生による教材評価を基に－ |
| ３．学会等名<br>日本消費者教育学会 |
| ４．発表年<br>2017年 |

〔図書〕　計9件

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>鈴木真由子 | ４．発行年<br>2020年 |
| ２．出版社<br>あいり出版 | ５．総ページ数<br>286 |
| ３．書名<br>家庭科　授業の理論と実践　持続可能な生活をつくる | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>大本久美子 | ４．発行年<br>2020年 |
| ２．出版社<br>あいり出版 | ５．総ページ数<br>286 |
| ３．書名<br>家庭科　授業の理論と実践　持続可能な生活をつくる | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>加賀恵子 | ４．発行年<br>2020年 |
| ２．出版社<br>あいり出版 | ５．総ページ数<br>286 |
| ３．書名<br>家庭科　授業の理論と実践　持続可能な生活をつくる | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>日本家政学会生活経営学部会関西地区会編(奥谷めぐみ) | ４．発行年<br>2018年 |
| ２．出版社<br>富士ゼロックス株式会社 | ５．総ページ数<br>75 |
| ３．書名<br>近未来の暮らしのマネジメント-15のテーマから考える生き方- | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>編著　杉山久仁子　　分担著者　鈴木真由子 | ４．発行年<br>2017年 |
| ２．出版社<br>明治図書 | ５．総ページ数<br>160 |
| ３．書名<br>中学校新学習指導要領の展開　技術・家庭　家庭編 | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>編著　古川稔・杉山久仁子　分担著者　鈴木真由子 | ４．発行年<br>2017年 |
| ２．出版社<br>ぎょうせい | ５．総ページ数<br>244 |
| ３．書名<br>平成29年改訂　中学校教育課程実践講座　技術・家庭 | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>鈴木真由子　他 | ４．発行年<br>2017年 |
| ２．出版社<br>開隆堂 | ５．総ページ数<br>127 |
| ３．書名<br>早わかり&実践 新学習指導要領解説 中学校技術・家庭 家庭分野―理解への近道 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|
| 研究分担者 | 奥谷　めぐみ<br>(Okutani Megumi)<br>(20636162) | 福岡教育大学・教育学部・准教授<br>(17101) | |
| 研究分担者 | 大本　久美子<br>(Ohmoto Kumiko)<br>(30548748) | 大阪教育大学・教育学部・教授<br>(14403) | |
| 研究分担者 | 加賀　恵子<br>(Kaga Keiko)<br>(20805981) | 弘前大学・教育学部・准教授<br>(11101) | |